

サステナブル経営に環境教育の視点

～子供たちに興味の種を～

リサーチの背景

今夏、トヨタ自動車株式会社(以下「トヨタ」)は体験型テーマパーク「MEGAWEB(東京・お台場)」にて、「こどもフェスタ」と銘打った環境イベントを実施した。

トヨタの環境への取組をクイズ形式やワークショップにより紹介し、子供たちが環境へ興味を持つきっかけになるようなプログラムであった。

作成者: H.H.

レポートに関する
お問い合わせ:
03-5542-5300
info@sfinter.com

こどもフェスタ風景1



(筆者撮影)

トヨタが目指す環境社会

トヨタはSDGsの実現を経営の最重要課題と捉えており、この環境戦略の大きな柱が「トヨタ環境チャレンジ2050」である。本プロジェクトは『人とクルマと支援が共生する社会を目指して走り続ける』をテーマに掲げ、2050年の未来に向け、6つの環境チャレンジを設定している。

1. 新車CO2ゼロチャレンジ
2. ライフサイクルCO2ゼロチャレンジ
3. 工場CO2ゼロチャレンジ
4. 水環境インパクト最小化チャレンジ
5. 循環型社会・システム構築チャレンジ
6. 人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ

これらの実行には、最先端のテクノロジーや最新鋭の機器に頼り切るのではなく、「econohito」と呼ばれる方々による日々の地道で真摯な活動が不可欠であるとしている。

こどもフェスタ風景2



(筆者撮影)

圧倒的な環境投資

そして、トヨタだけの努力でこのチャレンジの達成は当然に難しく、社会からの深い理解と協力が必要である。ではトヨタはどのように社会を導くのか。実はトヨタは『社会貢献支出額』が6年連続で国内でトップとなった環境企業である。2017年度の投資額は243.7億円にのぼり、これは2位以下を大きく引き離す圧倒的な投資額であった。今回の「こどもフェスタ」は未来のステークホルダーといえる子供たちへのメッセージの場であり、このような未来への啓発活動を継続的に行っている。

サステナブル経営と環境教育

持続可能な社会の実現には、我々大人だけでなく、今の子供たちが将来取る行動がますます多大な影響を与えるであろう。では、子供たちの視線を考えた時に一体どんなことが必要であるか。近年、主たる教育の場である学校でも環境教育が強化され、学習指導要領においても様々な機会でも環境問題の学習を勧めている。今や子供たちは、環境について学校で多くを学ぶ時代となっているのである。今後、企業はサステナブル経営の実現に向け、目の啓発活動に限らず、環境教育分野に対する積極的な貢献が必要となってくるのではないかと。

参考情報

環境教育の意義を定める学習意指導要領

『現在、温暖化や自然破壊など地球環境の悪化が深刻化し、環境問題への対応が人類の生存と繁栄にとって緊急かつ重要な課題となっています。豊かな自然環境を守り、私たちの子孫に引き継いでいくためには、エネルギーの効率的な利用など環境への負荷が少なく持続可能な社会を構築することが大切です。そのためには、国民が様々な機会を通じて環境問題について学習し、自主的・積極的に環境保全活動に取り組んでいくことが重要であり、特に、21世紀を担う子どもたちへの環境教育は極めて重要な意義を有しています。』(引用: 文部科学省HP)

社会貢献支出額ランキング上位10社

順位	社名	社会貢献支出額 (100万円)	前年比増減額 (100万円)
1	トヨタ自動車	24,372	▲4,870
2	ホンダ	7,426	▲514
3	NTTドコモ	6,486	10
4	日本電信電話	6,402	▲373
5	JT	6,090	▲1356
6	三井不動産	6,033	487
7	サントリーホールディングス	5,840	356
8	武田薬品工業	5,595	1,842
9	日本生命保険	5,386	▲3,386
10	パナソニック	4,608	1,534

(注) 2017年度の社会貢献支出額が多い順に上位100社をランキング。

社会貢献支出額には寄付金その他、社会貢献を目的とした各種事業への支出額を含む。

(出所) 『CSR企業総覧(ESG編)』2019年版

参照・引用資料

- ・トヨタがSDGs/ESGの本格取り組みへ専門組織: <http://www.alterna.co.jp/26949>
- ・東洋経済『CSR企業総覧(ESG編)』2019年版
- ・文部科学省 環境教育: http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kankyou/
(以上2019年9月3日閲覧)

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。

本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。株式会社サティスファクトリーは、本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。

また、本件に関する知的所有権は株式会社サティスファクトリーに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。